



軽防協ニュース速報（号外）

2014年6月5日

軽種馬防疫協議会 事務局

(JRA 馬事部防疫課)

アメリカ合衆国における水胞性口炎の発生について

2014年5月下旬、アメリカ合衆国内では2012年8月以来（テキサス州では2009年6月以来）となる水胞性口炎の発生が確認された。米農務省動植物衛生検査部（APHIS）の報告によると、テキサス州の南西部に位置するキニー郡において、鼻口部に水疱や腫脹の病変が認められた5頭で確認された。国立獣医学研究所（NVSL）の検査により、ウイルスは2012年の発生と同様ニュージャージー型であることが確認された。感染馬群は、テキサス州動物保健委員会（TAHC）の検疫下におかれている。現時点でその他の周辺地域での発生は確認されていない。

水胞性口炎ウイルスは、馬、牛、豚、ヒツジ、ヤギ、ラマ他多くの動物の口腔、舌、鼻口、乳頭あるいは蹄に水疱や丘疹を形成する。対症療法によって病変は2~3週間で治癒することが多いが、伝染性の性質および口蹄疫等他疾患との類似性から、これらの徴候が認められた場合にはすぐに報告するよう注意喚起がなされている。ヒトに対する感染性は高くないが、ウイルスが開放創や眼、口などに入った場合にはインフルエンザ様症状を起こす可能性がある。水胞性口炎の伝播には昆虫が重要なベクターであると考えられており、吸血昆虫との接触を可能な限り限定する措置をとることが重要とされている。

【参考】

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report12_may14.html

http://www.tahc.state.tx.us/news/pr/2014/2014-05-28_VSKinneyCounty.pdf

軽種馬防疫協議会